

有明高専だより

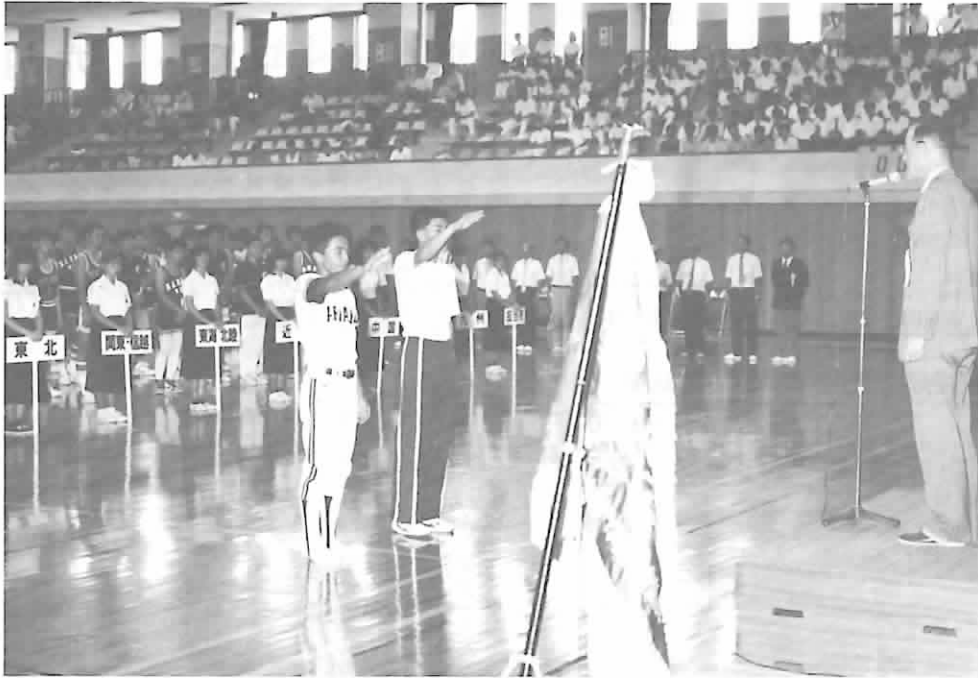
第 68 号

有明工業高等専門学校

〒836・大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-1013

印刷：重富オフセット



全国高専体育大会

3E田上君やり投で大会記録優勝
バスケット3位・硬式野球4位

今年の全国大会は九州で初めての試みとして8月21、22日の両日、久留米高専が主管校、有明、北九州が担当校となり分散方式で開催された。スローガンは「筑紫の空に舞い上げ 我らの高専スピリット」。本校はバスケットボールを大牟田市民体育館、硬式野球を大牟田市延命球場、荒尾市宮野球場で執り行った。

バスケットボールは13年ぶり出場の一関高専が初優勝を飾り、大会史上初の3連覇をねらった金沢高専は、決勝リーグ緒戦で一関に延長の末に敗れ、夢が断たれた。我が有明は金沢、一関に対し善戦、序盤リードしたが後半盛り返され3位に甘んじた。

全国大会3位となったバスケットボール部には日中青少年学生交流大会事務局長より第六回大会参加団体として招聘状が届いている。硬式野球は一回戦を苦小牧高専と対戦。一回表に二塁打二本を含む三本のヒットで三点を入れ試合の流れを決めた。二回戦、対和歌山高専戦では初回五番山本の三塁打などで四点を入れ試合を決めたかに思えたがその後攻撃戦となり惜敗した。三位決定戦では高知高専と対戦。有明の投手後藤は前日から三連投ながら好投、一点を争う息詰まる好試合となったが九回に逆転されて惜しくも敗れ四位の成績に終わった。優勝戦は和歌山、大分の間で行われ大分が五対二で和歌山を下し二年連続全国優勝を果たした。

20 19 18 17 16 14 12 10 6 5 4 3 2 1

目次

- 1 全国高専体育大会
- 2 入試説明会・校内見学会
- 3 中学校訪問
- 4 昭和63年度 編入学試験公開講座
- 5 パソコン入門教室
- 6 中学生のための化学実験講座
- 7 座
- 8 いま思うこと
- 9 川崎先生、学術奨学金を受けられる
- 10 テレホンサービス開始!!
- 11 人事異動
- 12 趣味の英語会話
- 13 バイク実技講習会
- 14 創立25周年記念特集
- 15 最近5年間の資料
- 16 文化講演
- 17 韓国の学生事情について
- 18 工場見学等
- 19 教室通信
- 20 同窓会だより
- 21 学寮だより
- 22 第25回九州地高専体育大会優勝にあたって
- 23 第23回全国高専体育大会
- 24 下宿主との懇談会
- 25 初優勝!! 弁論大会
- 26 小文化祭
- 27 体育祭
- 28 高専体育大会ラグビーフットボール競技報告
- 29 四高専合同演奏会
- 30 ある御婦人からの手紙
- 31 新学生会役員決定
- 32 編集後記

入試説明会・校内見学会 参加者 六一八名

10月29日(土)

本年も例年通り入試説明会及び校内見学会を10月29日(土)に実施した。本年は参加者が昨年に比べて大幅に増加し、618名を数えた。(昨年度472名)内訳は、生徒101名、保護者50名、教諭77名、参加中学校数84校であった。

実施要領は、例年通りで、全体を2組に分け、1組6班編成(1班約50名)で、受け付け時間を第1組12時30分から、第2組13時55分からとした。また本年から入試説明会における各科目主任による学科紹介という要望が多かった。さらに昨年のアンケート結果を踏まえ、本年度は本校学生による見学説明会を増やし、また総合実習センターの見学をやめて、学生会によるクラブ紹介を行った。これはかなり好評だった。(コメント集参照)

参加中学校都市別内訳

大牟田市	11	筑紫郡	1
三池郡	1	福岡市	6
山門郡	5	粕屋郡	2
柳川市	4	宗像郡	1
大川市	2	田川市	1
筑後市	2	嘉穂郡	1
八女市	4	荒尾市	5
八女郡	2	玉名市	3
三潁郡	3	玉名郡	8
久留米市	4	鹿本郡	1
小郡市	3	熊本市	2
三井郡	1	天草郡	1
朝倉郡	1	佐賀市	1
太宰府市	3	佐賀郡	1
春日市	3		
大野城市	1		

計 84校

各学科等の見学場所及びテーマ

学科等	テーマ	見学場所
電子計算機	電子計算機設備 CAIによるアモ	電子計算機室 (図書館3階)
一般科	L・L設備	3階 L・L教室
工業化学科	分子模型アニメーション 分析化学実験の展示と説明	3階 機器分析実験室 1階 分析化学実験室
電気工学科	先端技術用モーターの いろいろ パソコンによるロボット及 び電気鉄道模型の制御 パソコンネットワーク マイクロ波による通信	1階 電気機械実験室 2階 電子実験室 2階 通信実験室 2階 通信実験室
建築学科	建築学科の概要 造形、建築設計製図の 作品展示 騒音測定と日影作成 構造材料とRC・SC 骨組の実験	1階 ポーチ 1階 造形室 1階 造形室 1階 構造実験室
機械工学科	①工作実習 ②NCフライス盤・マシン ニングセンターの運転 ③油圧サーボ、振動の実験 ④蒸気原動機実験 ⑤材料実験設備 ⑥X線応力測定装置 ⑦水力実験 ⑧内燃機関実験 ⑨振子時計	1階 実習工場 1階 工作実験室 1階 油圧実験室 1階 熱工学実験室 1階 材料実験室 1階 物性実験室 1階 流体実験室 1階 内燃機関実験室 1階 機械科ホール
学生会	学生会によるクラブ紹介	第2体育館東側

入試説明会・校内見学会アンケート結果

回答	回答	記入者	生徒	教諭	保護者	計
1	総参加者数及びアンケート記入者数	参加者 アンケート記入者	491名 454	77名 39	50名 20	618名 512
2	「入試説明会、校内見学会」に参加することを決めたのは(生徒のみ集計)	自分で 保護者のすすめ 先生のすすめ	434 8 12			454
3	あなたは有明高専をどの程度知っていますか	ア、よく知っている イ、ある程度知っている ウ、あまり知らない	16 226 212	3 16 17	8 11	19 250 240
4	あなたの身内の人で有明高専を卒業された人、在学中の人がいますか	ア、卒業生がいる イ、在生がいる ウ、いない	27 65 365	3 6 28	2 2 17	32 73 410
5	あなたは有明高専を見学されて、「高専」についてある程度理解が深まったと思いますか	ア、はい イ、いいえ ウ、分からない	369 6 76	37 1	19 1	425 6 78
6	あなたが有明高専を見学されて感じられたことは	ア、施設が整っている イ、実験設備等が充実している ウ、その他	279 199 28	22 20 3	9 13 31	310 232 31
7	このような行事は毎月頃実施したほうがよいと思いますか	ア、8月 イ、9月 ウ、10月 エ、11月 オ、その他の月	81 141 165 49 11	9 2 21 5	5 6 8 5	95 149 194 54 11

照)また各科の展示にもかなりの工夫がされており、中学生にもわかりやすかったようである。当日は心配された天候もどうか回復し、少々寒いながらも無事終了した。

アンケート・コメント集

△生徒のコメント▽
○5年生、4年生の人たちが親切だった。
○おもしろい人がいて楽しかった。
○とても気に入ったし、先輩方などやさしいので高専めがけてがんばりたい。
○僕たちもさわらせてほしい
○もう少しゆっくりに見学できたらよかったと思う。
○説明会が長すぎる。もう少し簡単に短かくていい。

△保護者のコメント▽
○各見学場所で学生達がしっかりしているのに感心しました。
○設備の整った所で子供が希望学科で熱中して勉強してくれる事を望みます。
△先生のコメント▽
○すわつての説明が長すぎた。パインフでわかる分は割愛してほしい。
○見学班はもう少し少人数で実際に実験などさせたかった。
○スライドがとてわかり良かったです。
○説明もとてもいいでした。学生諸君の気持ちよい説明もきけてありがたいと思いました。
○学生が生き生きとしているように感じました。

中学校訪問

本校のPRと中学校との情報交換を目的にした中学校訪問を昨年に引き続き本年も各学科の協力を得て、実施した。訪問中学校数は約100校で、訪問先は若干変更した。反省会においては、高専の中学校訪問が定着しており中学校の先生の高専に対する認識も深まっているとの意見が出された。訪問地域は次の通り

○福岡県：大牟田市・三池郡・山門郡・柳川市・大川市・三潁郡・筑後市・浮羽郡・三井郡・甘木市・春日市・大野城市・筑紫郡・筑紫野市・小郡市・朝倉郡・大宰府市
○熊本県：荒尾市・玉名市・玉名郡
○佐賀県：小城郡・杵島郡
○長崎県：島原市

昭和63年度編入学試験

8月24・25日の両日、工業高校生を対象にして編入学試験が行われた。志願者は、機械工学科2名、電気工学科1名、工業化学科と建築学科が各4名の計11名であった。選考の結果、次の7名が合格した。

○電気工学科 糸永浩二(玉名工業高校)
○工業化学科 進藤良晃(香椎工業高校)
安藤 真(香椎工業高校)
岩川智弘(大分工業高校)
○建築学科 塚本幸一(浮羽工業高校)
森本高洋(長崎工業高校)
坂根正哉(佐世保工業高校)

63年度 公開講座

中学生を対象とした公開講座「パソコン入門教室」は前年度までの「マイコン入門教室」は引き継ぐ形で実施された。本年度は昨年度までと変わって担当講師が荒木教授を始めとする電子計算機室のスタッフと、工業化学科を除く各学科1名ずつ選出の補助指導員の援助を受け行われた。

受講者は本年度も36名の多数にのぼり、第1演習室設置の21台のパソコンを用いて、下の表に示すスケジュールと内容に基づいてBASiCの基礎とパソコン操作実習が、前担当講師6人の指導のもとになされた。

受講生は大多数が未だパソコン操作の体験のない初心者でありながら、少し講義はむずかしいと感じながらも作成したプログラムの動いたことへの興奮と感動を見いだしている。また、パソコンへの一層の興味をそそられたと言う感想を受講後のアンケートの回答の中で、皆が様に述べている。

今後、来るべき情報化社会の中でコンピュータに関する知識が不可欠と言われる現代、中学生向けのコンピュータリテラシー教育の重要性は益々高まるものと思われる。



「パソコン入門教室」受講風景



「パソコン入門教室」記念撮影

本講座は今年度の新企画として工業化学科が実施したもので、やさしい化学の講義と化学実験を教師と生徒(中学生)が共同で行うことを通して、中学生の「化学に対する関心を高める」ことを目的としている。募集人員20名に対して参加者は15名で、3名を一つの班として5班をつくり、各班がそれぞれ5つの実験課題(別表)を行った。第一日は、午前中に、主任教授の講話、諸注意、実験指導員の紹介のあと校内施設の見学、昼食の後にさっそく実験に取りかかった。第二日は、実験の続き

と、まとめおよび反省会を行い無事終了した。中学生にとっては初めての本格的な化学実験であり、また取り上げられた実験内容も興味深いものであったために参加者全員最後まで熱心に受講していたようである。反省会においても、おもしろかった等と大変好評であった。今後ともこのような企画の公開講座は継続して実施される予定である。最後に本講座のため、各新聞社、大牟田、荒尾両市の広報の方々をはじめ多くの関係の方々に御協力を載いた。ここに記して深く感謝いたします。

(1) 「パソコン入門教室」

公開講座日程表

月・日(曜)	時 間	公開講座の内容
7月27日(水)	9:00~9:30 9:30~11:30 11:30~12:30	開講式 コンピュータ概論 BASiC入門(1)
7月28日(木)	9:00~11:00 11:00~12:30	BASiC入門(2) プログラミング演習
7月29日(金)	9:00~11:00 11:00~12:30	BASiC入門(3) プログラミング演習
7月30日(土)	9:00~11:00 11:00~12:00 12:00~12:30	BASiC入門(4) プログラミング演習 閉講式

(2) 「中学生のための化学実験講座」

- 開講日時：7月25日(月)、26日(火)
- 実施場所：有明工業高等専門学校 工業化学科 教室、実験室
- 募集人員：20名
- 実験課題及び指導員

実験課題	実験指導員
1. a. イオンによる電気の移動	木佐木・正留
b. 沈澱反応及び呈色反応によるイオンの検出	〃
2. 流れの観察、熱の移動、質量保存則についての簡単な実験	永田・高細
3. a. クロマトグラフィー(サインペンの色の分離)	松本・丸尾
b. 時計反応(ヨウ素でんぷん反応)	〃
c. 角砂糖の燃焼(触媒作用)	〃
4. 走査型電子顕微鏡による化合物の結晶の観察	宮本・八本
5. 化学に関するパソコンによる学習	吉武・渡辺

いまま思ふこと

M 川崎 義則



九月二十六日、京都鴨川のほとり、京大公会館において、西島安則京都大学総長から工学博士の学位記をいただくことができた。生れて四十二年と二ヶ月にして私が初めて味わうことができた厳粛かつ光栄なひとときであった。

この機会に、私の歩いてきた道のなかで、強く印象に残っていること、いま思うことについて述べてみたい。

出合い

決してストレートな道とはいえず、人の何倍も道草を食ったこれまでであるが、進学、就職、研究の方向などの選択に際しまた新しい道を踏み出すとき必ず素晴らしい人々と出会うことができた。それらの人達に共通していることは、非常に長いタイムスケールにわたったうえでのアドバイスを与えていただいたという点である。また、強引ともいえるほど積極的で前向きな姿勢の個性的な方々ばかりであった。いまそれが鮮明に分かるのである。感謝しなればならない。

勉強、仕事 恥ずかしい話であるが、家庭で勉強について、指導してもらった記憶はない。しかし一つだけ、忘れられないことがある。中学二年の終りころ、定期試験の最中、例の如く全く勉強のベの字もしない私は近くの悪童どもと山にいった。そこへ、私の母がやってきた。そこへ、私の母がやってきたのである。いつも、口うるさく勉強しろというので、またかと思っているときどきばかりは我慢がいよいよ頂点に達したのだろう。すごい形相であった。母がいうには、「一生懸命田畑で働くのが私の仕事だ。一生懸命勉強するのがお前の仕事じゃないのか。」私は目が覚めたような気がした。このとき以降、母の怖い顔は見たことがない。与えられたところで、しっかりやること、これが、勉強であり仕事であることを教えてもらった。感謝したい。

研究 最近になって、思う。白紙に地図を書き込んでいくようなものが研究ではないかと。専門書を含めいわゆる市販されているものの内容は、殆ど完成された地図である。教師の仕事の中に何らかの形で、この地図づくりが存在すべきことが最近になってやっと分かった。恥ずかしい話である。思えば、これまで指導をうけた諸先生、いずれにも、その姿勢がうけとられた。頑張らねば。

カナダ留学 六年も前になったが、在外研究員として十カ月の海外単身生活を経験した。得たものは数限りないが、なかでも、一人になってみて、人間一人でもできることの限界と逆にその無限性もわかった。客観的なもの見方が以前に比べたらできるようになったし、現在の私がいかに多くの人々によって支えられているのかも素直に分かるようになった。学位論文のシーズを探しだせたことと同様に意義のある留学にすることができた。関係各位にあらためて感謝したい。

研究テーマ 制御系が最適に運転するように制御器を構成しても環境条件、運転条件により動特性が変動する場合、制御系が最適状態にある保証はない。この場合、動特性を時々刻々同定しながら、その同定値に基づいて制御器を構成(自己調整)すること。これが適応制御手法である。適応制御の考え方は新しいものではないが、理論研究はこの二十年足らずの間に目覚ましい進歩をとげた。しかしながら、実用化に際し、制御系全体が極めて複雑化すること適応系構成に対する仮定があまりにも厳しいことの問題がある。私は、この問題に対し新しいアイデアを用いて、構成を簡素化した仮定に対する許容を拡大(ロバスト性増大)したもので「ロバスト性と構成の簡素化を考慮した適応系の設計法に関する研究」の

テレホンサービス開始!!

開始!!

「こんにちは、こちらは有明高専テレホンサービスです。立冬も過ぎ、里の木々も色づき始めました。……」、ボサノバ調に編曲した校歌をバックに、優しく語りかけてくれる女性職員。

本校では、七月中旬より、父兄、学生及び中学生を対象に、学校行事、学生の近況、入試関係の情報等を、毎月2回、内容を変えてテレホンサービスで流している。父母とのパイプ役として充分その役割を果たし、段々と利用者も増えている。

川崎先生、学術奨励金を受けられる

青少年の育成と学術教育振興を目的に、学術奨励金、振興助成金を援助している財団法人「吉田学術教育振興会」から、顕著な研究成果をあげたとして、このほど機械工学科の川崎義則先生に奨励金百万円が贈られた。奨励金贈呈の対象になった研究テーマは「ロバスト性と構成の簡素化に着眼した適応アルゴリズムのロボットアームへの応用」である。なお、贈呈式は、3月9日、久留米市で行なわれた。先生は、永年の研究実績が認められて、京都大学から学位授与の朗報も飛び込んでおり、二重の喜びにひたっておられる。今後のますますの成果を期待したい。

人事異動

- ◎以下昭和六十三年七月一日付昇任▲
 - 教授(建築学科) 新谷隆一
 - ◎以下昭和六十三年八月三十一日付辞職▲
 - 教授係(建築学科) 壬生美智代
 - ▼配置換▲
 - 学生係(庶務係) 佐藤律子
 - 教授係(機械工学科)(学生係) 右田末子
 - 庶務係(寮務係) 三井教子
 - 教授係(建築学科より機械工学科へ) 中川雪枝

昭和63年12月24日

「趣味の英語会話」

上原 修一

ラジオ英語会話を聴き始めて、早くも十八年目を迎えています。十八年という、学生諸君にとっては気の遠くなる様な年月に感ずるかも知れませんが、テキストの巻末の投書欄を見ますと、二十年も三十年も続けている人がかなりいますので、十八年は特に長い方とはいえません。

聴き始めたのは高専の一年生の時でした。奇しくも故松本享氏(経済評論家に同姓同名の人が居る様ですが別人。当時、英会話をやっている人達にとっては神様みたいな人)の最後の放送の年になりました。当時ESS部員の私は、5年生の話す流暢な英語に大いに魅せられました。今考えると、どれ程だったのだろうかと思いますが、当時の私には、とてもしつばにきこえました。実際、その先輩は米人宣教師と話す前に、口と舌の運動をやった程でした。

高専の1年生にとって、ラジオ英語会話はやや難しい内容だと思えます。しかし私達1年生は、月末にはテキストがボロボロになるまで、連日その日のスキットを丸暗記したものでした。慣れないと一日分を暗記するのに30分以上も要します。しかし週末にはその週の会話通りに寸劇をやる程でした。秋の高専祭では英語劇をやりま

した。舞台上の上等恥ずかしくて嫌だと思っておりましたが、何度か上っていると、人は慣れてくるのか、英語よりも演劇の方が面白そうだと感ずる位でした。英語劇をやった良かったと思える事は、当時苦労して覚えた科白は今でも一部口から出て来ることです。私は熊大編入後熊大のESSでも一度英語劇に出たのですが、その時の科白はすっかり忘れてしまっています。苦労して覚えた事は長く覚えていられるようです。

英会話の勉強を続けてきて、良かったと思える事として次の事があげられます。

- (1)交友の広がりができること。
- (2)気分転換になること。
- (3)意志薄弱の自分でも続けている事があるというということから自信の源泉となること。
- (4) (英語による)洋画をみる楽しみがあること。
- (5) 外国へ行った時あまり困らない。日本で外国人と話す時も余裕を持って応待できること。

私は高専卒業後一年間東京で働いていたのですが、その時半年間だけ夜間の英会話学校に通っていたことがありますが、その十人程のクラスで、大学生・OL・商社マン等の非常に多彩な人達と知り

合いになりました。職場だけの人間関係とは別に友人・知人を持つことにより視野が広がったことは、とても良かったと思います。一般には(5)に示す事のために、英語をやりたいと思う人がほとんどでしょうが、通常はこの様な機会はあまりないということが事実でしょう。しかしながら、日頃続けていると、この様な機会に間に合わないということもまた事実です。従って、日頃は(1)~(4)の事で満足し、楽しみながら続ける訳です。さて、現在の我校のESSの活動振りには残念ながら、衰退している様にも見られます。英語に少しでも興味のある学生諸君は、是非クラブに入って活動してもらいたいものです。英会話は一人で勉強しても面白くありませんし、長続きしないからです。ところで建築学を学ぶ学生を悩ます科目のひとつに、「構造力学」があります。先年、「趣味の構造力学」という、この科目に悩まされた者をニヤリとさせる様な本が出版されました。構造力学でも何でも、趣味といえる程まで好きになり、勉強を続けたいと、必要な時に役に立たないということでしょうか。構造力学が趣味になり得るならば、いわんや英会話においてをやです。学生諸君も今日から、趣味としての英会話を始めてみませんか。

バイク実技講習会

バイク通学生を対象としたバイク実技講習会が6月21日の午後3時30分より、本校グラウンドと校内道路を用いて行われた。この数年間は法令講習も同時に行われていたが、本年は4月に大牟田文化会館で行われた「交通安全フェア」をそれに換えた為、当日は実技講習のみ行われた。

本年度は講習会の前に車輛の整備状況の点検が行われた。これは本校では初めて行われたもので、大牟田市二輪車安全普及協会の指導員の皆さんの協力により実施することができた。その結果は診断カルテを各バイクに付けて個々の学生に通知してある。約10台のバイクの中で47台のバイクが要整備車輛であった。特に目立った要整備部分は、タイヤ摩耗やブレーキ部品の不良であった。中には数台禁止されている改造ハンドルを取付けている車輛も見られた。これらの整備不良や車輛改造は直接事故に結び付くことが多い為、要整備の診断カルテが付いていた車輛は早急に整備してもらいたい。

本番の実技講習は車輛点検の翌日に行われた。最初に大牟田警察署交通課の小坪総務係長より大牟田・高田地域における交通事故の発生状況の説明が行われた。それに続き実技講習に移ったが、最初に正しい乗車姿勢の説明が行われ

た。本校のバイク通学生を見てみると両足や肘が広がっていたりして正しい乗車姿勢とはいえない者がまだまだ多く見られるようである。自分の身を守るため一刻も早く正しい乗車姿勢を行ってもらいたい。乗車姿勢の説明に続き昨年と同様に交差点・一本橋とスラローム・ブレーキングの三班に分かれ、それぞれをローテーションして受講するという形式で講習会は進められた。それぞれの部分を約20分ずつ受講し、午後5時前に無事終了することができた。毎年のこととは言え、一輪車安全普及協会の指導員の皆様の御陰である。最後に感想を一言書いておく。

本校の学生諸君は自由にバイクに乗れるせいか、運転に馴れており技術的には相当高い水準に在るようである。しかしその馴れが道路上で安全確認を怠ったり、暴走に結び付いてはいないだろうか。今後は実際の自分の路上での運転行動をもう一度振り返り、さらに安全運転に努めてもらいたい。

最後に感想を一言書いておく。本校の学生諸君は自由にバイクに乗れるせいか、運転に馴れており技術的には相当高い水準に在るようである。しかしその馴れが道路上で安全確認を怠ったり、暴走に結び付いてはいないだろうか。今後は実際の自分の路上での運転行動をもう一度振り返り、さらに安全運転に努めてもらいたい。

最後に感想を一言書いておく。本校の学生諸君は自由にバイクに乗れるせいか、運転に馴れており技術的には相当高い水準に在るようである。しかしその馴れが道路上で安全確認を怠ったり、暴走に結び付いてはいないだろうか。今後は実際の自分の路上での運転行動をもう一度振り返り、さらに安全運転に努めてもらいたい。



技術戦略ポリシーと企業風土

昭和43年機械工学科卒
吉田 愼男
(ソニー株)

有明高専の機械工学科を卒業してから早いもので二十年が過ぎてしまった。この二十年間でオーディオからビデオへと仕事の分野を変え、その職務も技術開発から商品開発及び商品企画の担当者を経て、現在では中・長期技術戦略立案の仕事をしているが、一貫して磁気記録というフィールドで働いてきたことに変わりはない。そこで、この私のバックボーンとも言えるべき磁気記録の一つのテーマとして、今私が携わっている8ミリビデオをソニー株がどういう考えで開発したのかを説明して、企業の技術戦略というものの一端に触れて頂きたいと思う。

VTRの歴史は記録密度向上の歴史でもある。世界で最初のVTRは一九五六年に開発されたが、一時間の白黒画像を記録するのに三DKのマンション程度の面積(七十平米)のテープを必要とした。それが種々の技術改良で1/2時VTRでは新聞を広げられた程の大きさ(〇、五平米)にカラー信号を記録できるまでに改良された。ところが、一九八五年の8ミリビデオでまた一気に1/4になっている。過去三十年かかって〇、五平米にまで記録密度を上げてきてそ

ろその限界に近づきつつあったものが、なぜまた一気に1/4になったのか? これはメタルテープというまったく新しい素材の出現に負うところが大きい。

全く新しい技術の場合は開発努力に比例した成果がなかなか出ないもので、初めの数年間は、多大な開発投資を行っても徐々にしか技術進歩がない。しかし、ある時期を過ぎると急激に技術が進み始める。そして、数年あるいは数十年の技術革新の時代を過ぎるとどんな技術でも成熟が進み、再び進歩が停滞を始める。一つの新しい技術が生まれてから成熟するまでの期間を横軸に、技術の進歩を縦軸にとると、今言ったことは丁度アルファベットのSの字のようになるので、我々技術開発に携わる者は、これを「Sカーブ」と呼んでいる。一つの技術が成熟した時、すなわちSカーブの終点にきた時に、次の新技術がそこに待ち構えていてくれれば何の問題もない。しかし、普通はそううまくいかなかったり、次の新技術はいまだ多くのリスクを含んだ未完成の領域にある場合が多く、その性能も、その時点だけを据えてみれば成熟した旧技術よりもかえって下回るものが普通である。中・長期の技術戦略を担当していると、十年に一度か二十年に一度はこの様な技術の交代期に直面することになる。そして、各企業の内部で全く正反

対の二つの議論が戦わされることになる。即ち一つは、「リスクのある新技術に投資するよりも、実績のある今までの技術を更にブラッシュアップして、確実な成果を得よう」という意見であり、もう一方は「現時点では劣性であったも将来性のある新技術に開発投資を集中して近い将来に一気に新しい世界を拓こう」という意見である。今から十年前に我々が8ミリビデオの開発に着手した時にも酸化鉄テープを探るか、メタルテープを探るか、全く同じ議論が繰り返された。そして、それまでのソニーがいつもそうした様に、我々は新しい技術であるメタルテープに賭けた。今では苦難の時期であるSカーブの最初の停滞期を無事乗り切り技術革新の波に乗りつつある。メタルテープはこれから益々その性能を高めていき、酸化鉄テープでは到底到達出来ない領域に踏み込んでいくことになる。十年前の我々の決断は間違っていないから我々、そういう決断ができたという事がソニーという会社の企業風土だと思っている。

機械工学科の近況

機械工学科主任 庵原久夫

一、体育祭 連続優勝
六十三年九月二十三日(金) 秋分の日に一瞬一生をテーマに第十五回体育祭が開かれ、M科は前回に引続き連続優勝しました。団体戦に好成績を取ることが、総合優勝に大きく寄与する原動力となったようです。

二、カリキュラムの改訂

情報化社会に対応し得る機械技術者の育成を目指して情報・制御・エレクトロニクス関連科目を強化拡充し、六十三年度よりカリキュラムの改訂を行いました。また設計・製図演習にCADを導入すべく六十三年度より試行しています。引続き、実験・実習の内容を見直しを行っており、六十四年度よりスタートの予定です。

三、新鋭実験設備の導入

六十三年春に「超精密高速マシンクセンタ」と「X線回折・応力測定装置」の新鋭機が設置され、工学実験や卒研に威力を発揮することが期待されています。

25年の歩み

昭和37年
有明工業高等専門学校設置成会が設立される

昭和38年
38年度設置が正式に決定入学試験。志願1635名。(於：大牟田南三池高)

昭和39年
有明工業高等専門学校(機械工学科、電気工学科、工業化学科)が設置される。校長・牛尾広恵、事務長・村上正男。教官の官理職として教務主事・学生主事がおかれる。

昭和40年
荒尾市増永の仮校舎において開校式・入学式。

昭和41年
寄宿舍「若葉棟」竣工。管理棟・一般棟竣工。仮校舎から現地に移転。運動場完成記念の第一回体育祭。

昭和42年
第二期新営工事(専門棟・青葉棟など)竣工。

昭和43年
正門完成。

昭和44年
西鉄バス「高専線」開通。コート開き球技大会。第一回学生会選挙。

昭和45年
第一回卒業式。

昭和46年
校舎の完成。

昭和47年
武道場の竣工。

昭和48年
校内食堂の完成。

昭和49年
第一回卒業式。

昭和50年
建築学科増設に伴う新営工事(一般研究室、建築学科棟、銀杏棟、厨房)竣工。

昭和51年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和52年
「有明高専だより」創刊。

昭和53年
「有明高専だより」創刊。

昭和54年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和55年
「有明高専だより」創刊。

昭和56年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和57年
「有明高専だより」創刊。

昭和58年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和59年
「有明高専だより」創刊。

昭和60年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和61年
「有明高専だより」創刊。

昭和62年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和63年
「有明高専だより」創刊。

昭和64年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和65年
「有明高専だより」創刊。

昭和66年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和67年
「有明高専だより」創刊。

昭和68年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和69年
「有明高専だより」創刊。

昭和70年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和71年
「有明高専だより」創刊。

昭和72年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和73年
「有明高専だより」創刊。

昭和74年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和75年
「有明高専だより」創刊。

昭和76年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和77年
「有明高専だより」創刊。

昭和78年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和79年
「有明高専だより」創刊。

昭和80年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和81年
「有明高専だより」創刊。

昭和82年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和83年
「有明高専だより」創刊。

昭和84年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和85年
「有明高専だより」創刊。

昭和86年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和87年
「有明高専だより」創刊。

昭和88年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和89年
「有明高専だより」創刊。

昭和90年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和91年
「有明高専だより」創刊。

昭和92年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和93年
「有明高専だより」創刊。

昭和94年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和95年
「有明高専だより」創刊。

昭和96年
原清史君(3Mの学校葬)。

昭和97年
「有明高専だより」創刊。

小西裕司君(2C) 柔道

轟一郎校長着任。

菅田敏男校長死去。

全国高専体育大会で剣道部団体優勝。

5月 上履きの廃止。

8・19~21 学生課の新設。

4・1 学生課の新設。

11・6 上履きの廃止。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

昭和46年 菅田敏男校長死去。

高専の贈り物

昭和46年電気工学科卒
辻田 政広
(テレシステムズ社長)

私は四期生であるから、高専創立期の匂いを幾分か味わったほうだが、一年の担当は辻一夫先生であったが、この先生にまず高専流のパンチを受けてしまった。今でもはっきり憶えているが英文の電気工学概説で、いきなり名前を呼んで訳せというわけだ。電気のデの字も判らない面々が、見事な逐語訳で対抗するから迷訳も続出する。たとえば、currentを流れと訳してすましておくと、「お前は訳した内容が理解できるか」と質問される。判るはずもないからちがごめ。Wheatstone bridgeを苦心の末、麦石橋と訳せば発音のまま「キョーリ夫人伝」を説くとくる。普通なら文章の起承転結の区切り方、隠れた主語がどれで活用形はこうなるなど、国文法を細かく学ぶところだろう。ところがとうとう最後までそんな授業はなかった。岩波文庫が多かったが、すべて丸ごと原本を読まされた。試験といえ、感想文を書くこととおしまい。どうやって点数をつけてたんだと不思議になる。

しかし、よくまあ次々と読まされた。いきおい図書館に足を向けざるをえない。入学当初はまだ図書館にも蔵書が少なかつたが、先輩が読んで本を手当り次第に読みまくった。おかげで本を読む楽しみが、日焼けのように頭を焼き始め、本を読むことがあまり苦痛でなくなった。おまけに大学受験というおぞましい儀式がなく、思う存分自由に読む時間を持てたのが、それを加速したらしい。図書館では足りなくて、大牟田市内の本屋、市立図書館、先生方の部屋にある蔵書まで借り出して盗読に励んだ。ただ吉富久夫先生に卒業間際、「学生が本を読むのは当り前、問題は卒業したあとも持続して読むかどうかだ」といわれたことがある。

何事もその人にとって、避けがたいものは、いつまでも続くものだとはいわれた。就職しなければ身にしみて判らないかもしれないが、仕事に携わると、とことん時間に追われ、仕事に疲れ、本を読む酒でも飲んでいたくなる。学生と違って時間がなくなり金も余って来ると、読書以外のことが目に入る。こんな日常の流れが本を読み通せるかどうかの岐路を作ると吉富先生はいわれたと今では理解している。

ここで読書のメリットをひとつだけ挙げておきたい。商品が作品と見れば、どんな商品も気まぐれではなくある構想(ビジョン)

を背景に生まれる。商品を企画するにしても開発するにしても、構想力のない人に魅力的な商品作りはできない。読書はそんな構想力をトレーニングするのに役立つことを強調しておきたい。

たとえば、夏目漱石が好きで読み始めたなら、小説はもちろん、書簡、講演など残されたあらゆる文章を読む。明治の世相、社会史、歴史、同時代文学も読む。漱石を中心にとんとん興味を広げてゆくというのが私の読み方だ。すると漱石の暮らした街や家の様子が目に浮かぶようになるし、明治という時代の動きと漱石の考え、感じ方も自分の中に再構成できるようになる。ひとつでも夢中になれるものを自分の中に育むと、漱石という巨大な構想のもとに細部を練り上げることが楽しくなってくる。こういった経験が現在の私には大いに役立っている。商品企画も経営戦略も時代を読むこと、それに向けてのビジョン作りが不可欠であろう。今までは楽しくそれをやってきたような気がする人間には考えつきもしないことをできようはずもない。読書は考えること、構想することのトレーニングとして最高のプロセスを提供してくれる。

読書する楽しみを植えつけてもらったことが、私にとっては高専の大きな贈り物であったと思う。

電気工学科最近5年の歩み

本校が創立20年を迎えた昭和59年以降今年に至る5年間の本学科関係のいくつかの事項について述べる。

昭和59年より61年までの3年間は停年制による教官、技官の人事異動が例年になくみられた。武下教授、清田、近藤技官、春口さんが去られ、中原教官、堀田、塚本技官、牛島さんが着任され、時の流れを感じさせる年月であった。

61年は荒木が教務主事を去ると同時に須藤先生が学生主事に就任され、次いで63年辻先生が代って学生主事に就任され電気工学科の教官の主事としての仕事が続いている。

本学科のカリキュラムについては、最近の社会、技術界の要請もあり情報処理については60年1単位、62年3単位、また63年更に1単位増し、本年度入学生は計7単位履修する様に強化され、電算室の効果的利用と相俟つて効果が期待されている。この5年間新しい機器として導入されたものとしてパソコンLAN実験装置があるが、この世界の世代的交替は激しいものがあり、更に高度な機能を有するコンピュータが求められており今年度UNIX系研究のためWSを導入する予定であり期待されている。与えられた紙面が僅かとなったが今後の本学科の進展に大きく関与するものとして新設予定学科との関連する事項が多くあり、本学科内においても関係教官により鋭意検討が進められている。

3・20	「紀要」創刊。
3・27	第二期新営工事(専門棟、残部、体育館、紅葉棟など)竣工。
4・1	事務部制の実施により、庶務・会計の二課新設。全棟に電話が開通。
4・30	第一回高専祭。
10・15	機械実習工場竣工。
昭和42年	
11・15	校内食堂の完成。
2・28	武道場の竣工。
昭和43年	
3・25	第一回卒業式。
4・1	建築学科増設。
4・1	同窓会の発足。
8・31	牛尾広恵校長退任。
9・1	菅田敏雄校長着任。
昭和44年	
3・20	建築学科増設に伴う新営工事(一般研究室、建築学科棟、銀杏棟、厨房)竣工。
7・13	「有明高専だより」創刊。
8・15	原清史君(3Mの学校葬)。
12・23	原清史君(3Mの学校葬)。
昭和45年	
4・1	学生課の新設。
5月	上履きの廃止。
8・19~21	全国高専体育大会で剣道部団体優勝。
11・6	菅田敏男校長死去。
昭和46年	
1・20	轟一郎校長着任。
1・21	小西裕司君(2C) 柔道

歳月

昭和45年工業化学科卒

重村 栄 (市議会議員)



「お父さん、どこかに行くの。」

「うん、有明高専の体育祭に行くよ。おまえも一緒に来るか。」

「来る。」

できるものではなかったであろう。とうとうとして話す父親を見て、何らかの反応をしてやらなければ悪いと思ったのか、「フーン」の一言。後で思えば、この時点から調子が狂い始めていたようだ。

閉会式までの途中、親子の会話の中に「お父さんの頃は……」という会話が何度となく出てきた。「お父さんの頃は……」と言うたびに、タイムマシンで過ぎ去った歳月を思い、二十年ほど前の自分に戻った様な気持ちになって、目の前の学生に自分自身をダブらせてみたりした。そうしていると、何日か前まではグラウンドを走っていたような、卒業したのは昨日の事のような錯覚すら感じた。

でも現実には十九年の歳月が過ぎ去っている。その間、家庭的にも、社会的にも、自分自身の肉体的にも著しい変化が生じている。縁あって、有明高専の後輩の仲人をさせて頂いたが、そんな年令になつてしまつていたのである。

昭和三十八年に創立されて以来二十五年を経た有明高専。この間に多くの学生が巣立っていき、今社会で大いに貢献している。四分の一世紀の歴史。長いほど短い様に長い歳月ではあるが、一日と刻まれていくことには間違いない。

工業化学科近況

本校創立二十五周年を迎え、この間の工業卒業生は六五七名に達しています。卒業生の皆様の御活躍、中でも初期の頃の卒業生には既に重要なポストで大活躍中の方が少なくない事を見聞きし、教室一同、心よりお慶び申し上げます。



工業化学科 現教室職員

以上の陣容で、学科主任の木佐木先生を中心に講義・実験・卒研など教育・研究に努力中です。卒業生の皆様の益々の御発展を教室一同、祈念申し上げます。

近況報告

昭和48年建築学科卒

野下 裕司 (熊谷組)



有明高専創立25周年を迎えられここにニューヨークよりお慶び申し上げます。今日はこの場をお借りして、私事で恐縮ですが、卒業後の近況報告をさせていただきます。

昭和48年に卒業し、熊谷組に入社しました。北関東支店勤務を経て、昭和50年に海外事業本部に転勤して51年にシンガポール勤務となり、以来、シンガポール、マレーシアで10年、工事管理を行って来ました。その中で幾つかのプロジェクトを特筆いたしますと、当時(12年前)熊谷組でも第2の超高層ビルであったシンガポールの電話局、マレーシアでは楠竹中工務店・清水建設とJ・Vによるアムノ・コンプレックス(延床面積約16万平米、地上41階地下1階、RC造)、ここアメリカに

クに赴任して来ました。摩天楼の立ち並ぶここマンハッタン島で、10件のプロジェクトを管理しています。そのプロジェクトは28階建から55階建まで、最大規模の工事では延床面積は約22万平米に及ぶものもあります。おかしな事で、学生時代、英語なんてと思つていた私が、アメリカの著名なアーキテクト・エンジニア・コンストラクターと仕事の上で渡りあつていかなければならないとは、おもしろいものです。

私は高専に入学して3年間、勉強もせず、本を乱読したりしてのりくらりしてました。しかし、4年生になった時、赴任して来られた先生方に刺激を受け、奮起した4年生・5年生の自分が思ひだされます。余り自分に変わりはないものの、3年生までいつも思つていた「自分だって勉強すれば負けやしない」が当たっていた様に思います。

現在の有明高専建築学科の後輩達を知る由もありませんが、どこかで変な方向に進んでいられる後輩達が居ましたら、こんな卒業生も居る事を知って頂けたら幸いです。私は、出来るか出来ないかは別として、出来るだけ早く、有明高専の後輩達の社会への道が大きく広がるように、それなりの立場に立つるように、今後とも一所懸命に頑張つて行くつもりです。

最後にになりましたが、有明高専の諸先生には、在学中いろいろとご指導、ご助力を賜り、そのお陰で有意義な学生生活を送らせて頂いた事を深く御礼申し上げます。母校の益々のご発展と皆様方の活躍を遙にお祈り申し上げます。(180 AVENUE OF THE AMERICAS, 5TH FLOOR, NEW YORK, NY 10038)

建築学科廿年の歩み

- 43・4 建築学科が増設される。翌年3月に建築学科棟竣工。
44・4 山口光臣教授が着任し、建築学教室の整備に着手。年度末には30万能試験機を設置。
46・3 200万能試験機を設置。10月に第1回建築展「すまい」を井筒屋百貨店で開催。
47・4 教官スタッフの整備終了。11月に第2回建築展「大牟田の未来」を井筒屋百貨店で開催。同年度に50万能構造物試験機及び電気油圧式疲労試験機を設置。
51・4 「総合実習」を全校的に実施し、施設等の設計・施工に着手。年度末に総合実習センター棟竣工。建築棟2階製図室を教室、造形室を製図室に改造。同年に神田伸三教授が退官。
53・4 工高卒2名が第4学年に編入学。光弾性試験装置を設置。
55・4 山口光臣教授退官。10月に退官記念祝賀会を開催。
56・4 新教育課程施行。
58・10 小住宅設計コンテストに4Aの2名が佳作、入選。同窓会「やつちやろ」会設立(11月)。
60・10 パンガローハウス全国コンペで5A藤浦君が一席に入選。同年11月X線応力測定装置設置。
62・7 長洲町中央公民館で造船不況技術者への公開講座開催。
63・3 松島寛治教授退官。青少年弁論大会で3A矢高君一位。

入試関連

編入学試験

Table with columns: 年度, 校内見学会, 志願者, 入学者, 卒業生. Rows for years 58 to 62.

Table with columns: 年度, 期日, 志願者, 合格者. Rows for years 58 to 62.

九州地区高専体育大会(団体)

Table listing sports results for Kyushu Region High Specialized School Sports Meeting (Team). Columns: 年度, 種別, 成績.

体育祭・高専祭

Table listing sports festival and high school festival events. Columns: 期日, 種類, テーマ.

物故者

Table listing deceased individuals. Columns: 氏名, 卒年, 生年, 備考.

受賞

Table listing award recipients. Columns: 年度, 受賞内容.

全国大会(3位以上)

Table listing national competition results. Columns: 年度, 種別, 順位, 選手名.

九州地区大会(個人)

Table listing Kyushu Region Meeting (Individual) results. Columns: 年度, 種別, 順位, 選手名.

役職教官

Table listing faculty roles and names. Columns: 職名, 氏名.

役職事務官

Table listing administrative roles and names. Columns: 職名, 氏名.

新入生オリエンテーション

Table listing orientation dates and locations. Columns: 期日, 場所.

学生会長(正・副)・寮長

Table listing student union presidents, vice presidents, and dormitory heads. Columns: 職名, 氏名.

公開講座

Table listing public lecture dates, topics, and target audiences. Columns: 期日, テーマ, 対象.

文化講演 (63.11.4) 韓国の学生事情について

しいのみ学園園長
鼻 地 三 郎



ある時、韓国の大学から特別講演を頼んで参りました。そうしてご縁から、いまご紹介頂きましたように大郎(たいきょう)大学に招聘されました教授、大学院長を致しての事でありました。丁度オリビックが成功致しまして、オリビックの間テレビその他でいろいろ沢山の事情が伝えられてきて皆さんも興味を持っておられると思うのでありますが、私自身のことを言いますと、子供の時に韓国の慶州というところに居りまして、そして現在大郎大学の教授になって居るのであります。大郎と申しますと皆さんあまりご存じではないと思うのですが、ソウル、釜山につぐ第三の都市で釜山の少し北よりあります。そのすぐ近くに新羅の都があります。また、釜山と大郎の間に蔚山(うるさん)という所がありまして、ここには、造船、自動車、電子工業などの工業団地があります。その

対岸に浦項という所がありまして、ここには日本の八幡製鉄所の指導で原野を開いて作った浦項製鉄所があり、現在新日鉄と相争っているのをご存じです。韓国は長い歴史を持つているのであります。新羅時代日本に漢字を伝えたのも韓国であり、また仏教が韓国を経て日本に伝わって参りましたし、あるいは焼物などが韓国を経て日本に伝わって来たのであります。それで韓国とは昔から非常に関係が深いのであります。また、地形的に中国大陸から朝鮮半島が突き出し、対馬、壱岐があり、九州がある。大陸から日本に向かつて突き出した韓国を乳房に見立てることが出来ます。つまり、日本は韓国という乳房を通して大陸の文化を受け入れてきた訳です。韓国の教育制度は日本やアメリカと全く同じ6334制でありまして、この学校のように高校と短大が一緒になったような高校と短大の学校はありませぬ。ただ、職業学校、各種学校が高等学校の上にあります。小学校は義務制、中学校はまだ義務制になっていません。実質は義務制と同じように中学へ88%進学する。それから、中学から高校への進学率は90%です。日本より進学率は高い。大学はいくつあるか、そうですね、昔の人間に聞けば10校位ですかね、という答えが返って来る。ところが、韓国の人口は4000万ですから、韓

も大学は200ある。だから、韓国に行きまして大きな建物があったら大学でしようというたら間違いない。大学を出ますと非常に優遇されて月給が高い。日本では高校を出て就職しても大学を出て就職しても給料はあまり変わらない。うっかりすると、勤務年数から考えると高校出がよい。ところが韓国では高校出と大学出とは同じ年齢で比較すると2倍まではいかないがおよそ60%位給料が高い。それから、日本の短大に相当する実業専門大学というのがあります。これは、例えば、女の子では保育科とか看護学科とかいったもので、この実業専門学校と大学とは格差があります。韓国では、このように大学を価値あるものとして扱っている。大学の入試はどうなっているかと申しますと、大学入学検定試験というのがありましてこれに合格しなければ大学を受験できない。どんなに金があってもこの検定試験に合格しなければならぬ。ほぼ高校卒の三分の一の有名校はソウル大学、これは日本の東大に相当する、それから、学生運動の盛んな高麗大学、延生大学、これは日本の早稲田、慶応に相当する。このような有名大学を卒業しないとどこにも就職できない。ということと高等学校は検定試験を受けるための予備校のようになる。中学はいい高校に

ただ今ご紹介頂きました鼻地(しやうち)三郎でございます。中村学園大学で心理学を担当しております。子供は三人おりますがそのうち二人はあの恐ろしい脳性小児まひに冒されまして、足の立たない子供、手の動かない子供、言葉の言えない子供を二人連れましてこの人生を歩み続けているのであります。自分の子供が学校にいけない、就学免除、こうしたことから「しいのみ学園」という小さな障害児の学園をつくりまして三十四年経ちました。その三十四年の間に判ったことがただ一つあるのです。それは「いかなる子供でもその心の奥底に伸びていく美しい芽を持っている」ということです。人間はいかに生きるべきかまたいかにして自分の能力を出していくかということが実際に学園の子供達と寝食を共にして判ったのであります。

ある時、韓国の大学から特別講演を頼んで参りました。そうしてご縁から、いまご紹介頂きましたように大郎(たいきょう)大学に招聘されました教授、大学院長を致しての事でありました。丁度オリビックが成功致しまして、オリビックの間テレビその他でいろいろ沢山の事情が伝えられてきて皆さんも興味を持っておられると思うのでありますが、私自身のことを言いますと、子供の時に韓国の慶州というところに居りまして、そして現在大郎大学の教授になって居るのであります。大郎と申しますと皆さんあまりご存じではないと思うのですが、ソウル、釜山につぐ第三の都市で釜山の少し北よりあります。そのすぐ近くに新羅の都があります。また、釜山と大郎の間に蔚山(うるさん)という所がありまして、ここには、造船、自動車、電子工業などの工業団地があります。その

だ専門だけをやっておつたのではダメです。今日は皆さんと親しくなつたから、私の日記を見せます。私の日記は韓国語で書いてあるんです。点やら棒やら、毎日の日記を韓国語で書いています。今日は有明高専で講演したというところを、韓国語で書きます。皆さん、明日から英語で日記を書きなさい、ドイツ語で日記を書きなさい、まだドイツ語をやっていない人は英語で日記を書きなさい、必ず辞典をひかなきゃならぬ。そして、一步一步自分が前進して行く喜びを自分自身で感ずるところに人間の生きる喜びがある。そうした努力を重ねていくところに人間の成長があります。

「私は韓国に骨を埋めるつもりです」。皆さんも、自分の目標に向かって現在ある自分よりもより高い自分へ、より一歩前進する自分へというように自己建設をして行つて下さい。今日の話が、英語をやり一般教養をやる契機になればと思います。そしてそれが自分の自己建設を日一日と高めていくという決心をしていただく縁(えにし)になれば幸いです。(文責 辻)

はいるために予備校化する。このようにして小学校はおるか幼稚園から塾にゆく。そうすると、金持ちは塾に行けるが貧乏人は塾に行けない。そこで五年ほど前に政府は塾を禁止しました。だから自学自習ということになる。辞典をひいて勉強する。塾に行くより実力が付く。皆さん、辞典を持っていきますか? 「学生とは辞典を引く動物なり」というように、向こうではこれを小学校のときからやっている。いま、韓国の子供の目標はマンションに入ること、マンションに入るには高い月給を貰わなければならない。それには今の内から勉強しておかなければならぬ。この教育熱は日本よりはるかにすさまじく真剣です。学校で講義をして質問と申しますとみんなよく手を上げる。日本の大学で学生を静かにさせる方法が一つある。それは質問と言えよ。ほんとにたいした違いです。韓国の大学では一年から原書講読があり学生は皆、原書や英字新聞、タイムを持ち歩いている。日本では英文科の学生でも英字新聞を持ってはいない。大学は入学するとき定員が三割ほど余分に入れる。ところが卒業できるのは定員だけで三割は卒業できない。そういう制度になつてはならない。そういう制度になつてはならない。また、大学に入

入学式には5000人の入学者にその父母など合わせて2万人程集まり、式は運動場で行う。周辺には首に花束を売って花屋が並び集まる。最近、次第に大学院を修了した人の就職がなくなつて院浪が増えている。頭脳流出が起こっている。

韓国の人口は日本の三分の一ですがオリビックで金メダルの数は韓国12、日本4でした。というのは韓国ではオリビックで金メダルをとれば、一時金一千万、年金が死ぬまで月二十万出るようになってくるからです。だから、親孝行の第一は「金メダルを取る」ということになる。日本では、かつてオリビックに負けたら日本に帰れないといつてインド洋で自殺した人がいましたけれども、今では「ああ負けた」ですむ。韓国には「ウリナラ」という言葉がある。「ウリナラ」とは我々の国という事です。日常の会話にこの言葉がよく使われます。つまり、お国のためといつてを全面にだしまして日本に追いつけ、追い越せで非常に頑張っている。繊維産業は最近日本にダンピングで売戻り込んでいます。造船はすでに韓国が優位に立っている。電子産業の発展も著しい。とくに三星という会社はあと五年でソニーを追い越すといつています。自動車もそうです。最近では有田焼、大島紬まで韓国

で作られている。このような韓国産業の進展は国民の勤勉さと知能によるものではないでしょうか。知能調査によると、日本と韓国とはほとんど接近し非常に高い水準にあるのですが、韓国はそれに加えて「やる気」がある。いわゆるハングリー精神というもので、知能が優秀な上に「やる気」があるといふことはまことに注目すべき事でありました。このようなことを、むこうの教壇に立ち指導してみても非常に強く感ずるのであります。「日本は非常に豊かである」、「日本は非常に豊かである」といふことは、まことに良いけれども、その豊かさに甘えておると、やがて悲劇が来るのではないかとこのことを恐れるのであります。

さて、私は大郎大学とご縁がありまして教授になり、また大学院長という仕事をして、はじめ通訳を通してやっておりましたが、通訳をやつておるといふと時間が2倍かかるし、ホントに通訳していかどうかかわりませぬ。そこで、私はこの年で韓国語を勉強しました。今朝もそうです。「○○○○」まで韓国語の時間があつて、毎日テープに聞いて聞いているんです。「皆さん、英語をやりましょう」、「ドイツ語をやりましょう」特にこういう専門学校に足らないものは、一般教養だと言われております。そういう語学が出来ない、あるいは文学を読まない、た

だ専門だけをやっておつたのではダメです。今日は皆さんと親しくなつたから、私の日記を見せます。私の日記は韓国語で書いてあるんです。点やら棒やら、毎日の日記を韓国語で書いています。今日は有明高専で講演したというところを、韓国語で書きます。皆さん、明日から英語で日記を書きなさい、ドイツ語で日記を書きなさい、まだドイツ語をやっていない人は英語で日記を書きなさい、必ず辞典をひかなきゃならぬ。そして、一步一步自分が前進して行く喜びを自分自身で感ずるところに人間の生きる喜びがある。そうした努力を重ねていくところに人間の成長があります。

だ専門だけをやっておつたのではダメです。今日は皆さんと親しくなつたから、私の日記を見せます。私の日記は韓国語で書いてあるんです。点やら棒やら、毎日の日記を韓国語で書いています。今日は有明高専で講演したというところを、韓国語で書きます。皆さん、明日から英語で日記を書きなさい、ドイツ語で日記を書きなさい、まだドイツ語をやっていない人は英語で日記を書きなさい、必ず辞典をひかなきゃならぬ。そして、一步一步自分が前進して行く喜びを自分自身で感ずるところに人間の生きる喜びがある。そうした努力を重ねていくところに人間の成長があります。

「私は韓国に骨を埋めるつもりです」。皆さんも、自分の目標に向かって現在ある自分よりもより高い自分へ、より一歩前進する自分へというように自己建設をして行つて下さい。今日の話が、英語をやり一般教養をやる契機になればと思います。そしてそれが自分の自己建設を日一日と高めていくという決心をしていただく縁(えにし)になれば幸いです。(文責 辻)

はいるために予備校化する。このようにして小学校はおるか幼稚園から塾にゆく。そうすると、金持ちは塾に行けるが貧乏人は塾に行けない。そこで五年ほど前に政府は塾を禁止しました。だから自学自習ということになる。辞典をひいて勉強する。塾に行くより実力が付く。皆さん、辞典を持っていきますか? 「学生とは辞典を引く動物なり」というように、向こうではこれを小学校のときからやっている。いま、韓国の子供の目標はマンションに入ること、マンションに入るには高い月給を貰わなければならない。それには今の内から勉強しておかなければならぬ。この教育熱は日本よりはるかにすさまじく真剣です。学校で講義をして質問と申しますとみんなよく手を上げる。日本の大学で学生を静かにさせる方法が一つある。それは質問と言えよ。ほんとにたいした違いです。韓国の大学では一年から原書講読があり学生は皆、原書や英字新聞、タイムを持ち歩いている。日本では英文科の学生でも英字新聞を持ってはいない。大学は入学するとき定員が三割ほど余分に入れる。ところが卒業できるのは定員だけで三割は卒業できない。そういう制度になつてはならない。そういう制度になつてはならない。また、大学に入

「私は韓国に骨を埋めるつもりです」。皆さんも、自分の目標に向かって現在ある自分よりもより高い自分へ、より一歩前進する自分へというように自己建設をして行つて下さい。今日の話が、英語をやり一般教養をやる契機になればと思います。そしてそれが自分の自己建設を日一日と高めていくという決心をしていただく縁(えにし)になれば幸いです。(文責 辻)

- 工場見学等
- 4月23日 5A 大牟田文化会館
- 5月12・13日 5M マックスコンクリート工業(株)、ト
- 10月20・21日 3A 北九州市立中央図書館、北九州市
- 5月26日 5A 電機製作所
- 5月26日 5A 新日本製鐵(株)戸畑製鐵所、(株)安川
- 6月2日 4C みのり保育園
- 6月2日 4C (株)ブリヂストン久留米工場、日本
- 6月16日 4A ゴム(株)久留米工場
- 6月20・21日 5E 久留米市立図書館
- 6月22日 5C 三菱重工(株)長崎造船所、三菱電
- 6月30日 5A 九州工業技術試験所、ブリヂスト
- 7月5日 5A 高取保育園
- 7月6日 5A 米の山病院
- 7月8日 3C 熊本大学(卒業設計展)
- 7月8日 3C 熊本凸版(株)精密電子工場
- 9月8・9日 2E 三菱電機(株)福岡製作所、九州電力
- 9月28日 4M (株)玄海原子力発電所
- 9月29日 3A 日立造船(株)有明工場
- 10月20・21日 3A 北九州市立中央図書館、北九州市
- 10月20・21日 3A 三井東洋化学(株)大牟田工業所
- 11月10・11日 3C 九州電力(株)新熊本変電所、九州電
- 11月10・11日 3C 力(株)黒川第一発電所
- 11月11・12日 4A 三菱製鉄セメント(株)黒崎工場、三
- 11月11・12日 4A 菱化成(株)黒崎工場、黒崎製業(株)、
- 11月30日 3E 佐賀エレクトロニクス(株)佐賀工場
- 12月1日 4C (株)ブリヂストン久留米工場

同窓会だより

晩秋の萩尾台から

萩尾台が、四季を通して一番美しい時期は、11月下旬から12月の始めにかけてではないか、と私は思っている。勝立から三ヶ山、三池山にかけて、紅葉の季節は樹木の種々の彩りが美しく、楡の深紅、櫟の淡い枯葉色、樺の黄色から茶色に移る様等、自然木の巧まぬ配色の妙は、仕事に疲れた心を和ませてくれる。

東の方に眼を移すと、小岱山が落着いた佇まいを見せる。この山頂に立つと、玉名平野が眼下に広がり、遠くは宇土半島、天草の島、九重の山脈、そして有明海を隔てて雲仙岳を望むことが出来る。キャンパスから見る小岱山の姿は西北になだらかに延びる稜線と四季折々に変る山巒の色合いが美しい。特に晩秋の昨今は山は秋色の衣をまとい、和服の絵模様さながらの風情である。

府本の登山道から、全校あげて小岱山登山をしたのはキャンパスが萩尾台に移った直後のことであったか。学生も教官も、有明高専の前途に榮あれど、開拓期に集う者の気負いと責任感と誇りに、表情がひき緊って見えた。小岱山にまつわる記憶の中の一駒である。

振り向けば、大牟田市街地の彼方に有明海が光る。正門からの晩秋の景色も又捨て難い。近景左手に萩尾古墳の丘、そして右手には梅園と畑、その背後には、椎や楠か、可成りの大木の林。そしてその先に萩尾、笹原地区の住宅が展がる。市街地の一角には、紅白の縞模様の港発電所の煙突が聳え立つ。そして更に光る海の彼方に多良岳の連山が長い稜線を引く。

萩尾台から見る晩秋の落日もまた秀逸である。澄みわたる暮れ方の秋空は、ばら色とも黄金色ともつかぬ色に煌めき、透徹するような赤紅色の大きな太陽が、逆光に浮び上る多良連峰の山の端に、夕暮の佇びしきの中に、荘厳な光芒を放ちながら沈む。

筑後が生んだ天才画家、青木繁、坂本繁次郎は、この光彩を画布に移した。この荘厳な落日に感動しながら坂を下りた記憶のある卒業生もいることと思う。

I 回生がもう40才を過ぎ、立派な中年の紳士である。高専に対する企業側の求人は依然として活発である。学生達は先輩が築き上げた信頼と評価に應え得る人材となり得るのか。それには日々我々は何を為すべきか、と自らに問いかけながら、心を新たに学生に立ち向うのである。(品川)

同窓会々員名簿を発行しました。
まだ残部がありますので、希望者は、各学科担当者までお申し込み下さい。
＝ 連絡先 ＝
〒836 大牟田市東萩尾町150 有明高専 同窓会
機械工学科：田口または川崎
電気工学科：須藤または塚本
工業化学科：永田
建築学科：吉岡または上原
TEL 0944 (53) 1011(代)・FAX 0944 (53) 1361

教室通信

機械工学科

※機械工学科一期生卒業20周年記念同窓会開催

さる5月21日(土)の夕刻、大阪市内、三井ガーデンホテルにおいて、機械工学科一期生17名が、恩師、木本知男先生を囲んで、卒業20周年を記念して同窓会を行いました。木本先生の最近の中国旅行を含めたお話、卒業生諸君の卒業から今日に至るまでの仕事の事、家庭の事など、実に楽しいスピーチで盛り上げました。全員が要職にあり、最新のホットニュース、その裏話まで聴くことができました。予定の2時間はあっという間に過ぎこのあと、キタへ出掛けての2次会で更に盛り上がり話は尽きることがありませんでした。3年後、名古屋地区での再会を、また次回は、風呂にでもつかり、ゆっくり同宿しての同窓会にすることを約束して散会しました。

おわりに、遠方より御多忙の中御出席いただいた木本先生をはじめ、同窓生諸氏に対して厚く御礼申し上げます。また、会の準備に御協力いただいた上村敏雄君には心から感謝いたします。

参加者は、有馬慎一(日本鋼管) 池辺賢一郎(川崎重工) 今古賀義広(日立造船) 上村敏雄(三井東庄) 城戸成明(城戸運送) 串山一孝(中村事務所) 古賀武博(栗本鉄工) 白石 靖(九州大日本印刷) 田口勝身(三井ハイテック) 田代幸博(JR西日本) 永田慶治(川崎重工) 福田欣也(東芝) 松浦 正(岩谷産業) 米多比常世(ミノルタ) 山田澄雄(三井三池製作) 吉津達美(富士通)、二期生より寺岡和夫(日本コロンビア)(敬称略)でした。 川崎義則(記)



※石崎勝典、山下巖、宮川英明先生が新設の共通専門科に移られました。(63年4月)
※猿渡真一先生が教授に昇任されました。(63年4月)
※川崎義則先生が京都大学より工学博士の学位を受けられました。(63年9月)
※中川雪枝さんが機械工学科より建築学科に移られ、機械工学科には、学生係より右田末子さんが来られました。(63年9月)
※南 明宏先生が10月10日に結婚されました。(新婦 幸子さん) おめでとうございます。

※卒業生の教室来訪者(敬称略)

(1期) 武藤、吉田(12期) 島崎、中武(13期) 塩塚(15期) 富安、花田(17期) 貝田、黒田(18期) 長岡、林田(19期) 小山、小宮(寿)、東、田島、木村、小宮(俊)、山崎(寿)、吉富、森田(20期) 池末、加藤、戸上、島本(21期) 洲崎、田中、六倉、宇佐、今村(智)、山迫、石野、田代、原田、松尾、南、毛利、小柳

電気工学科

※次の方々が結婚されました。おめでとうございます。

- ◆坂元克行君(45) ○63.3結婚(新婦あつ子さん)
◎〒228 神奈川県相模原市相武台2-21-10 千寿コーポラス TEL0462-53-1158
- ◆古賀啓一君(55) ○63.3.6 結婚(新婦聖子さん)
◎〒663 西宮市小松南町3丁目4-18-502号 TEL0798-48-5674
- ◆荒巻泰尚君(59) ○63.4結婚(新婦治代さん)
◎〒835 福岡県山門郡瀬高町大字山門1777-3 TEL09446-3-5390

※転職をお知らせします。

- ◆浦塚 精君(56) □転職・アポロ電子工業㈱(〒833 筑後市大字北島) ◎〒864 荒尾市増永976 TEL09686-3-1540
- ◆富吉正治君(56) □転職・九州設計技術センター(株)大阪支店(〒553 大阪市福島区福島5丁目17-30) ◎〒210 川崎市川崎区川中島セントヒルブ川崎大師801号室 TEL044-276-5394

◆学校来訪者(敬称略)

- 吉田博和(43) 坂元克行(45) 戸田信之(47) 小林和裕(51) 中川裕一、北原隆明(以上52) 古賀みのる(54) 中嶋博文(55) 富吉正治(56) 松藤 稔(57) 深浦清久、北島和浩、嶋田秀明、吉田龍次(以上58) 福島匡浩、荒巻泰尚(以上59) 岩田昭吾、井島達也、角田一誠、中村重治、中村博文、西川哲夫(以上60) 岩木英史、田口健一郎、中村剛直、東 泉、水元雄二、山田昌光(以上61) 衛藤浩美、河野 清、柿添健介、古賀雅典、鈴木正親、幸田芳典、原田英昭、吉原稔暢(以上62) 岩田文明、小川正弘、赤尾正光、井原隆敦、石川智章、緒方良男、新谷満徳、杉田幸治、中村真吾、堀 昌浩、松永英郎、田代信二、山浦英海(以上63)

工業化学科

※次の方が結婚されました。おめでとうございます。

- ◆城戸知昭君(53) ○63.5.21結婚(新婦直美さん)
◎〒837 大牟田市大字岩本2130 TEL58-3030
- ◆松本辰男君(50) ○63.5.29結婚(新婦恵子さん)
◎〒572 寝屋川市打上271-2東1602 TEL0720-24-4433
- ◆松原 薫君(旧姓山本)(58) ○63.8.28結婚(新婦伸次さん) ◎〒277 千葉県柏市北柏1-6-10ビューハイム北柏305 TEL0471-66-6607
- ◆小川照秋君(56) ○63.10.8 結婚(新婦美津子さん)
- ◆塚脇省三君(55) ○63.11.6 結婚(新婦寿美子さん)
- ◆田中 真君(63) ○63.7. 結婚(新婦恵子さん)
〒833 筑後市大字熊野920の3 TEL0942-52-6652

※次の方が就職・転職されました。

- ◆近藤和晴君(56) □転職(株)一番星 〒581 大阪府八尾市安中町5の5の36 コーポ鼎303 TEL0729-24-0046

- ◆七種謙一君(59) □就職 三菱金属中央研究所 〒331 埼玉県大宮市大成町1-545 大成寮401号室
- ◆江口晃史君(59) □就職 日本農業 〒658 神戸市東灘区住吉宮町5-5-10アビパドル御影東240室 TEL078-854-4632

建築学科

◆学科事務の壬生美智代さんが8月31日付で退職されました。昭和58年の2月から5年半の長期に渡り教室のお世話を頂きました。なお、お住いは以下の通りです。
〒836 大牟田市龍湖瀬町40の12市営住宅龍湖瀬団地1棟51号

◆壬生さん退職に伴い、9月5日付で機械工学科より中川雪枝さんが学科事務として着任されました。
◆新谷肇一助教授が教授に昇任されました。
◆第36回青少年健全育成弁論大会(昭和63年7月大牟田市で開催)で3A矢富君が第1位に入選しました。

※次の方々結婚されました。おめでとうございます。
◆藤浦正通君(60) ○63.6.26結婚(新婦原田直美さん(59))

◆山下正君(60) ○63.10.2 結婚(新婦友江さん)
◆大霜達也君(55) が急病により7月2日に亡くなりました。御冥福をお祈り致します。なお、御遺族の住所は次の通りです。
〒807-13 福岡県鞍手郡鞍手町新延笹尾88-2 TEL09494-2-3091

※卒業生の転職をお知らせします。

- ◆高田徹也君(53) アドテンポデザイン退社(株)新都市研究所開設 〒812 福岡市博多区築港本町8の18 TEL092-272-1999
- ◆小宮克巳君(57) 泰洋建設(株)退社(5/17付) 自営
- ◆宝部勝彦君(57) 北洋建設退社 □開設計事務所〒812 福岡市博多区博多駅前3-5-7 博多センタービル内 TEL092-472-2728
- ◆馬場英輝君(59) 篠崎設計退社、馬場工務店(自営)
- ◆渡辺晴美君(60) ニチゾウ広島退社、モダン家具販売入社
- ◆藤浦正通君(60) 上田篤アトリエ入社
- ◆柴田国広君(58) (文化財建造物保存技術協会)から10月より長崎県の崇福寺の三門・媽祖門修理工事を担当する旨りがありました。□〒850 長崎市鍛冶町715 崇福寺三門・媽祖門設計監理事務所 ◎〒850 長崎市上戸町455番地29 宅鳴マンション203号 TEL0958-25-0562

※他の転勤・転居等については今秋発行の同窓会名簿を参照して下さい。

◆学校来訪者(敬称略)

- 寺岡英一(48)、北村彰啓(51)、村橋喜満、中島敏宏、中野敏郎(以上52)、岡秀昭(53)、三小田善行(54)、吉野祐二、小川伸司、江口茂(以上56)、小宮克巳、岡野公嘉、橋本知章(以上57)、本田秀徳(58)、馬場英輝、松本尋己、藤浦(原田)直美(以上59)、中島 悟、藤浦正通、西村秀夫、野田幹夫(以上60)、内山嘉章、江崎和彦、江原由紀乃、永松尚、脇坂信吾、末松健二、(以上61)、内野治朗、古賀敏宏、竹山勝則、守田政晴、清家忠信(以上62)、布上文昭、伊藤義徳、池田有朋、茨木裕仁、加藤昇、荒木博之、福田英治、鬼塚和彦、森年幸、早川徳昭(以上63)

